

日本科学者会議第 19 回総合学術研究集会アピール

2012 年 9 月 16 日 第 19 回総合学術研究集会実行委員会

19 総学研究集会参加者のみなさん。3 日間ごくろうさまでした。

19 総学研究集会は、さいわい天候にもめぐまれ予想以上の約 500 名の参加者を得て成功裏に終えることができました。初日の池内・安齋・室崎 3 先生の基調講演・記念講演を柱とする開会全体集会では、原子力発電所をめぐる歴史、いわゆる「原子カムラ」の構造、そこでの科学者の関わり方、そして、3.11 以降、科学者と市民にいま何が問われているのかについての分析と問題提起は、この会場に入りきれない 400 名近くの参加者に大きな感銘を与えてくれました。また、夜の市民交流集会では、多数の原発反対運動や東北復興支援や福島原発告発訴訟運動、自然エネルギーへの転換活動などの多くの市民団体の報告を中心に市民と科学者の交流集会も 75 名の参加を得て実りある交流集会となりました。

また昨日今日と開催された 29 分科会では、150 を超える報告がなされ、多くの参加者を得て、専門分野をこえた総合と科学者と市民の連携をめざした学問のあり方が探られました。

さらに、ポスターセッションでは 3.11 東日本大震災や沖縄、各支部での活動など私たち日本科学者会議の活動をいきいきと伝える内容で多くの参加者に訴えるという点で大きな意義がありました。

その他、今回の総学の特徴として、マスターズレクチャーやヤングサイエンティストレクチャーは、日本科学者会議の研究の伝統の継承と新たな課題発見や新たな視点の開拓という点からみて評価できるもので、今後発展させていく必要のある試みです。

19 総学は、「持続可能な社会への変革をともに」を掲げて、3.11 の意味をあらためてそれぞれの専門において問い直し、そこで提起された問題が専門をこえた総合的課題として追究すると同時に、市民とともにする研究活動のあり方を探ることを課題として掲げました。そうした諸課題が具体的にはどの程度達成することができたのかは、これから検証していくこととなりますが、少なくとも、それなりに大きな成果をあげることができたことは間違いありません。最後に、この 3 日間で 5 名の新しい入会者があったこともご報告しておきます。これを機会に日本科学者会議の会勢を V 字型で大きく回復していこうではありませんか。

次回、2014 年に九州・沖縄地区が担当する 20 総学で、また、お会いしましょう。みなさん、ありがとうございました。

以上